



第六回三者懇談会開催

八王子センター元気
TEL&FAX
042-627-9179
八王子市大横町11-35

明日へ向けて

活発な情報交換
不満も残る

平成二十二年十月二十日(水)大横福祉センター研修室で、第六回三者懇談会が開催されました。八王子センター元気の活動に関係する三者(登録講師、利用者さん、コーディネーターの三者)による懇談会で、第一回は平成一六年九月に開催されました。二年ぶりの開催とあって、一日だけの開催にもかかわらず七十五名の参加があり、現在の活動状況報告と問題点、将来のあり方等について活発な情報交換が行われました。

一.出席者

当日の出席は七十五名と
なりました。その内訳は、
登録講師九名、高齢者施設
および学童保育所職員十九
名、地域包括支援センター
職員九名、来賓九名、八王

子センター元気コーディネーター二十九名でした。当初九十三名の参加が予想され、コーディネーターの参加自粛を呼びかける場面もありましたが、直前の欠席が多発した結果、七十五名となりました。二日にわたって



開催された前回の百三十名とは比較できませんが、今回の特徴は、①登録講師の参加が少なかったこと、②地域包括支援センターの参加が増えたことでした。

二.テーマ

これまではかなり自由に情報交換をしていましたが、今回は、「お互いに相手に望むこと」をテーマに設定し話し合いをしました。しかしながら結果としては、テーマが拡散する一方、それぞれのテーブルで同じようなテーマが話し合われることとなりました。時間が少なすぎたこともあったか

と思われる。

三.情報交換

情報交換は(イ)から(ヌ)までの十テーブルに分かれて行われ、それぞれのテーブルに、テーブルリーダーとサポーターとしてコーディネーター二名が配置されました。三者のバランスが、テーブルごとに見るとバランスは崩れており不満が残りました。

四.アンケート

・講師の条件の明確化。
・情報ネットワーク。

懇談会終了後コーディネーターを除いた出席者四十六名にアンケートが配られました。三十五名の方から回答があり、その結果は次の通りでした。

- ① 出席する 三十四名
- ② 記載なし 一名
- (質問二) 役立つか

- ① 役に立つ 三十二名
- ② 役に立たない 一名
- ③ 考えてみる 二名
- (ご意見・ご提案)

三十一名の方から回答がありました。これを要約すると次の五件になります。

- ① 「講師」、「施設」の呼称。
- ② 講師の出席数の増加。
- ③ 実費の取り扱い。
- ④ 独居高齢者対策。
- ⑤ 三者の連携と相互の情報開示。

(柴田)

講師紹介シリーズ 第十三回

オカリナで人の心を和やかにする

シルバー

カメのふんじ

お誕生日会



もう十年以上も前のことです。趣味の山登りで疲れた身体を山小屋のフトンに横たえていた時、すぐ近くのテント場から素敵なメロデーが聞こえてきました。その音色は清らかに澄んで私の心に沁み入り、山頂の青い空に吸い込まれて行きました。若者が一人、枯れ木に腰掛けオカリナを吹いていたのです。

それから数年後、八王子市の公報に「シニア（六十歳以上）の為のオカリナ講習会」を見つけ飛びつくように応募しました。しかし聞くのと吹くのは大違い。七転八倒の末やっとまあまああの音色が出るようになるのに三年、挫折そうになる

にはセンター元気の伊藤玲子さんもいらつしやいます。グループの名前は亀（タートル）のようにいつまでも元気でゆつくり長く続くことを願って「シルバータートルズ」と付けました。その後センター元氣副代表の伊藤涼子さんも参加、メンバーは六名に増えました。

ていて、六人で「ここはこうしたら？ああしたら？」とワイワイやっています。学生時代の音楽の時間に戻ったような気分が若やぎます。オカリナは土を捏ね成形し高温で焼き上げた土笛です。発祥の地はイタリアと言われています。音階の確

いています。最近韓国や台湾でオカリナブームが起きています。オカリナの音色はまだあまり多くの人に知られていませんが、素朴で落ちついていて人の心を癒します。しみじみと人の心に訴えます。むかしの文部省唱歌や抒情歌に良く合うので、高齢の方はとても喜んで下さいます。聞きながら子供の頃のことを思い出しているのでしょうか、大変お顔が穏やかになり、オカリナの伴奏で歌うときはとても元気に歌って下さいます。そして私たちが帰る時は満面の笑顔で見送って下さいます。その笑顔を励みにこれからもタートルズの名前通りゆつくりといつまでも元気で楽しく続けたいと思っています。



お誕生会で



演芸会で

月一回、自主練習をしてレパートリーもだいぶ多くなり、ハーモニーも以前より合ってきました。皆、この練習日をととても楽しみにし

かなオカリナを完成させたのは日本の明田（あけた）さんですが、いまもたくさんの人が独自の音色を求めてオカリナ作りの工房を開

（脇 靖子）

講師紹介シリーズ

第十四回

二胡と軽妙な話で魅了する

松前保弘さん、

定年まじかです。始めた二胡で八王子センター元気に講師登録をされた松前さん。本人は初心者の方を出ないと教室に通っておられるが、その軽妙な話は高齢者施設で好評を得ている。

ボランティア活動と私



私がボランティアについて考え始めたのは定年になる少し前で、ここまで生かして戴いたお返しを何かできれば、との思いであった。ある日新聞を読んで、二胡（中国の弦楽器）の宣伝が目に入った。これなら軽い音楽も嫌いじゃない

いので、高齢者の施設等で慰問が出来るかもしれないと思いい、早速購入して二胡の教室に通い始めた。

しかし悲しいかな音が出ない。ギーギーガリガリの雑音で音にならない。それでもしつこく頑張っている内に、少しずつ音色らしき音になってきた。

「センター元気」との出会いはいつ頃だっただろうか。数年前にボランティア活動のお世話をしていただく拠点と知り、大横町の事務所を訪問していろいろ活動のお話を聞きボランティアの登録をした。

腕前のほうは相変わらず初心者の域を今でも出ていないが、今まで何回か高齢者の方の施設やデイサービスセンターなどで利用者の方々が歌う曲の伴奏のお手伝いをしてきた。

当日の二週間位前から練習をして何とか上手く弾こうと頑張るが、当日はやはりミスをする。しかし利用者の方から



「また来てね」と言われると、また皆さんのために頑張ろうとエネルギーが沸いてくる。やはり皆さんの励ましの言葉がこのボランティア活動を支えている源である。

またこの活動は自分の為でもある。弾くことでボケ防止にもなっている。

こう考えるとボランティアとは周りの方から助けられながら共に活性化していく活動と思う。

「センター元気」とのつながりの中でも助けられて

二胡の説明をする

いる。コーディネーターのWさんからは他のサークルを紹介され、そこに参加することで人との交流が広がった。また私は地元の高齢者の集いの世話人をして、Wさん達に来ていただいて、楽しいひと時を持つことが出来る。感謝でした。

松前さんの

ボランティア歴

平成十五年退職の後、二胡の学習を七年間励まされ、ボランティア活動に入られて六年になります。

これからも「センター元気」にお話をさせていただきながら、ボランティア活動を通して皆さんに喜んでいただく奉仕を続けていきたいと思っている。今後ともよろしくお願い致します。(松前保弘)

おめでとう！ 八ボネット

十周年 記念イベント 成功裡に終わる

平成二十二年十月十九日（火）、八王子ボランティ
アネットワーク（通称、八ボネット、平成十三年五
月結成）が創立十周年を迎え、『創立十周年記念イ
ベント』が盛大に行われました。平成十九年四月に
八ボネットから分離独立した「八王子センター元氣」
にとっては生みの親ともいえます。イベントは、
第一部が『「ミネハハ」チャリティコンサート』、
第二部が『記念ディナーパーティー』でした。



子供たちと一緒に

第一部
「ミネハハ」チャリティ
コンサート
感動でした。「いちよう
ホール」の大ホール（定員
八百二名）から出てくる人
はみんな感動に酔いしれた
顔をしていました。五年前
にお招きした時とは全く変
わったミネハハさんがそこ



二二五名で盛大に祝う

にいました。
前半は、懐かしい
歌と家族への感謝の
歌、そして子供たち
と一緒に「はちバス
の歌」をサービスし
てくれました。
休憩の後、後半は
「荒城の月」に始ま
り「ありがとう地球」
に終わる、自然に対
する感謝と、この地
球に生きる喜びと畏
敬を高らかに歌い上
げてくれました。
第二部
記念ディナー
パーティー

編集員の記―季節感

八王子エルシイで行われま
した記念ディナーパーティ
には二百二十五名の方々の
参加を得、公演を終えたミ
ネハハさん、市長をはじめ
とする市関係者もご出席く
ださり、盛大に十周年のお
祝いをいただきました。
(柴田)

◎ 花鳥風月。自然の中に
ある美しい風景です。自然
を題材とした詩歌、絵画な
どをたしなむ風雅のことを
いいます。健康とおしゃれ
な会話を楽しみそれぞれの
趣味を生かされて、絵、写
真、俳句等自然の中にある
美しい風景を楽しんでおら
れる中高年層の方が、年々
増えておられるようです。
紅葉の秋は何と言つても一
番だと思えます。特に日本
の地形がもたらした紅葉は、
世界で最も美しいとも言わ
れております。木の種類に
よって違う、さまざまな色
がうまく調和し、見る人の

目に感動を与えています。
朝の露明け、昨夜の濃く深
い山々、流れゆく雲と交差
した時の風景に、何か人生
の深みと併せ感じます。
(佐藤照雄)

◎ 今年は夏から秋を飛ば
して行ってしまった感じ。
読書の秋、食欲の秋、紅葉
狩りと、人それぞれが心地
よく楽しむ季節。私は秋に
なると、西の市を楽しみに
待つ。「西の市」とは、
十一月の西の日に行われ、
おとり神社の祭礼、「や
まとたけるのみこと」を祀
り、開運・商売繁盛の神。
露天商が立ち並ぶ道を、人
を掻き分け、美味しそうな
匂いを嗅ぎながら、鳥居を
くぐり、神社にお参りする
のに並び、小さな熊手を買
う。商人たちは大きな熊手
を買い、シャンシャンシャ
ンと手打ちをしてもらい、
満面の笑顔で帰る。それを
眺めているだけで、心躍る。
七味を買って鳥居を出る
(月岡)